

切手と地質 (1)

藤島泰隆

世界各国で郵便に使用される目的で発行された切手は、すでに30万種を優に越えているが、これらの中から、描かれている図案あるいは発行目的が地質に関するものを中心に多少収集しているの、特定のテーマあるいは、図案をもとに既発行分が完全収集出来ているものを中心に紹介する。

万国地質学会議

昨年秋 万国地質学会議 (International Geological Congress 略称 IGC) が京都で開催された。IGC は1878年 第1回がフランス・パリで 23ヶ国 310名の地質学者の参加のもと開催されて以来、ほぼ、4年に一度の割合で世界各地で開催されてきたが、29回目が東アジアで初めて日本が主催国となり国立京都国際会館で 平成4年8月24日～9月3日の間 90ヶ国 4437名の参加をえて盛大に開催された。地質学における最大の国際会議である。

一般に国際会議が開催されると各国の郵政省は記念切手の発行をもって周知・宣伝、時には外貨獲得的な発行が見られるが、IGC については、以外に関心が薄く、記念切手の発行は、フランス領アルジェリアで開催された、第19回(1952)が最初であり、主催国以外の記念切手の発行は全くない。

以下、開催順に主催国が発行した記念切手を紹介する。

- ① 第19回 1952.9.8～9.13 開催国 フランス領アルジェリア (アルジェ)
参加82ヶ国 1129名 日本からは戦後初めての正式参加 (3名)であった。
第2次世界大戦後、敗戦国として、すべての国際会合 (政治・教育・スポーツ等)から締め出されていたが、IGC も例外でなく、第18回 1948年 ロンドンには、占領軍 (GHQ) の代表に随同行という方法でオブザーバーとして、1名 (石炭地質)のみ出席



アンモナイト

Berbericeras sekikensis

発行日 1952.8.11



貫入岩

Phonolite (響岩)

アンモナイト（6000万年前に絶滅した頭足類で オ-ムガイ・タコ・イカノ仲間）を描いた切手は世界各国から12種ほど発行され、アルジェリアが最初の1枚目である。アンモナイトの化石は日本からも多産（特に北海道・福島県等）して、学術研究に供される外、装飾用としても珍重されている

- ② 第20回 1956.9.4～9.11 開催国 メキシコ（メキシコ市）
参加105ヶ国 2120名 日本から7名参加



パリクチン火山 (Paricutin)
(1943年2月20日誕生の火山)

発行日 1956.9.4

パリクチン火山の誕生は、北海道の昭和新山と同様に、世界で最も若い火山の一つでメキシコ中部にある Michoacan 州 Paricutin 村（標高約2200m）のトウモロコシ畑が約246m隆起、玄武岩質安山岩ないし紫蘇輝石安山岩の噴出物は36億tに達した

昭和 new 山（406.9m）は洞爺湖の南岸にある有珠火山の寄生火山で、1943年12月末より地震・土地の隆起がおこり、円形の台地状の屋根山を形成し、引き続き、これを貫いて聳える円錐形の溶岩ドーム（円頂丘）よりなり、国の特別天然記念物に指定

- 第21回 1960.8.15～8.25 北欧5ヶ国： デンマーク・フィンランド・アイスランド・ノルウェー・スウェーデン（コペンハーゲン）は記念切手を発行せず
参加101ヶ国 2386名 日本から10名参加

- ③ 第22回 1964.12.14～12.22 開催国 インド（ニューデリー）
参加109ヶ国 1516名 日本から19名参加



地球儀とハンマー

発行日 1964.12.14

- ④ 第23回 1968.8.19~8.27 開催国 チェコスロバキア (プラハ)
 参加103ヶ国 2911名 日本から23名参加



アンモナイト
Hypophylloceras bizonatum
 ボヘミアの上部白亜紀産



蛙の化石
Palaeobatrachus grandipes
 北ボヘミアの新第三紀産



玄武岩とめのう



イタヤガイの化石
Chlamys gigas(SCHLOTHEIM)
 タトラ山 新第三紀

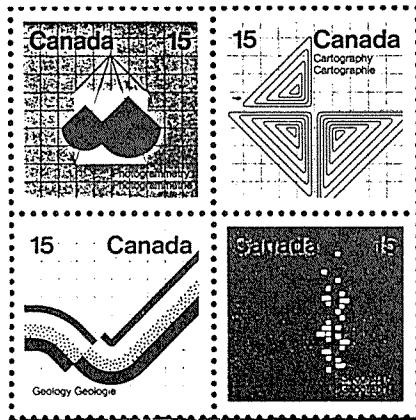


三葉虫化石
Selenopeltis buchi buchi(BARR.)
 中央ボヘミア オルドビス紀

発行日 1968.8.8

記念切手を5種の多数を発行し、チェコ国民の民主化への意気込みをみせたが、共産圏各国への波及をおそれ、いわゆる プラハの春をつぶすため、共産軍(ソビエト・東ドイツ・ハンガリア・ブルガリア・ルーマニア)の進攻により、プラハにおける国際会議は、途中で流会(8.21)となった

- ⑤ 第24回 1972.8.21～8.30 開催国 カナダ（モントリオール）
参加110ヶ国 3896名 日本から25名参加



国際写真測量学会議
国際地図学会議

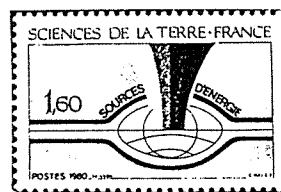
万国地質学会議
国際地理学会議

発行日 1972.8.2

カナダの会議は、万国地質会議の外、国際地理学会議・国際地図学会議・国際写真測量学会議が相前後して開催され、これらの会議を記念して4種セットで切手が発行された

- 第25回 1976.8.16～8.25 オーストラリア（シドニー）は切手を発行せず
参加110ヶ国 3896名 日本から61名

- ⑥ 第26回 1980.7.17～7. 開催国 フランス（パリ）
参加116ヶ国 4541名 日本から 80名

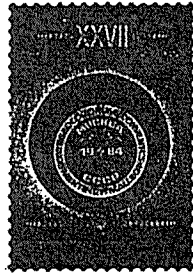


地球のエネルギー

発行日 1980.7.5

IGC は、3～4年毎に世界各地で開催されてきたが、100年記念として、再びパリで開催された

- ⑦ 第27回 1984.8.4~8.14 開催国 ソビエト（モスクワ）
参加108ヶ国 4666名 日本から40名参加

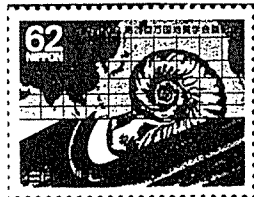


会議のシンボル・マーク

発行日 1984.7.20

- 第28回 1988.7.9~7.19 アメリカ（ワシントン）は切手を発行せず
参加107ヶ国 6044名 日本から129名参加

- ⑧ 第29回 1992.8.24~9.3 開催国 日本（京都）
参加90ヶ国 4437名 開催国のため1808名の国内の科学者が参加



地図
アンモナイト
地層断面

発行日 1992.8.24

京都会議は、皇太子殿下が名誉総裁として、開会を宣言された
なお、本会議は全地連も協賛団体となり、当協会の各社から賛同の協賛金を
いただいた

以上

（川崎地質棟）

なお、万国地質会議開催都市は次のようである

第 1回	1878.8.29~9.9	フランス(パリ)
第 2回	1881.9.26~10.5	イタリア(ボローニャ)
第 3回	1885.9.29~10.4	ドイツ(ベルリン)
第 4回	1888.9.17~9.22	イギリス〔ロンドン〕
第 5回	1891.8.26~9.1	アメリカ(ワシントン)
第 6回	1894.8.29~9.1	スイス(チューリッヒ)
第 7回	1897.8.28~9.5	ロシア(セント・ペテルスブルグ)
第 8回	1900.8.16~8.27	フランス(パリ)
第 9回	1903.8.20~8.27	オーストリア〔ウィーン〕
第10回	1906.9.6~9.14	メキシコ(メキシコ シティ)
第11回	1910.8.18~8.25	スエーデン(ストックホルム)
第12回	1913.8.7~8.14	カナダ(トロント)
第13回	1922.8.10~8.19	ベルギー(ブリュッセル)
第14回	1926.5.24~5.30	スペイン(マドリード)
第15回	1929.7.29~8.7	南アフリカ(プレトリア)
第16回	1933.7.22~7.29	アメリカ(ワシントン)
第17回	1937.7.21~7.29	ソビエト(モスクワ)
第18回	1948.8.25~9.1	イギリス(ロンドン)

